

東京都新宿区北新宿1-8-16
 東京土建一般労働組合
 電話03 (5332) 3971 (代表)
 FAX03 (5332) 3972
 発行人・編集人
 吉川 豊

印刷部数10万9500部
 (購読料は組合費のなかに含まれています)
 (年間購読料 千八百円)
 定価 五十円



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

企業交渉へ 情報提供を
 第75回企業交渉を4月21日・22日を中心に行ないます。今回も都連役員が参加しますが、交渉では仲間の現場情報が必要で、コロナ感染対策、休工に対する補償など、情報が支部へ寄せして下さい。

すべての仲間と大衆運動強化を

東京土建第75回 定期大会

魅力ある建設産業へ

4つの重点目標で行動提起

3月21日、東京土建は「建設従事者の仕事とくらしを守る要求実現と社会変革をめざし、組織拡大・確立強化と大衆運動強化をすべての仲間と共に」をメインスローガンに掲げ、第75回定期大会を開催しました。新型コロナウイルス感染症が収束せず、3年連続の1日WEB開催となり、本部会館と3会場をライブ配信でつなぎました。参加者は代議員が286人、代議員以外の本部役員が19人、特別代議員が36人でした。

定期大会は大会議長に矢吹一幸(八王子)、隅田祐太郎(新宿)、市川耕平(西多摩)、大会書記長に山崎修世田谷の皆さんをはじめとする諸役員を選出して始まりました。



4会場を結んで団結を固めた(本部会館)



渡辺副委員長から記念の盾を受け取る関根さん(左)

冒頭、中村隆幸委員長が中央執行委員会を代表してあいさつ。物故者への黙とうに続いて、ロシアのウクライナ侵攻にふれ、平和の重要性を訴えました。また建設アクション運動や建設アスベスト訴訟のたたかひなど前進した取り組みについて述べ、75周年の節目となる今年度、魅力ある建設産業に向けてともに前進しようと訴えました。(3面に掲載)

小番書記長の基調報告では、はじめに2021年度に展開した建設アクションでの要請行動と地域貢献活動、社会保険拡充月間、組織確立と活動家育成での取り組みなどの教訓と、現場での交渉づくりに向けた大衆的な運動構築と組織化、PALの再構築・資本従事者組織化と運動化などの7つの運動課題の到達を明らかにしました。そして7つの運動課題のさらなる具体化に向けた2022年度の運動方針として、①政治社会情勢・労働運動学習と活動家育成で大衆運動強化を、②建設アクション運動を多面的に広げた大衆的産業民主化を、③組織確立・拡大目標・組織増勢ができる拡大運動強化を、④青年部活性化と後継者対策を組織活動の重点に、の4つの重点目標での行動提起と一

層の団結を訴えました。各専門部長による方針提案(4・5面に掲載)に続いて、丸山篤義副委員長が決算報告・予算案、規約改定案を提案。さらに書記長・書記次長による基調報告と各専門部議案に対する事前質問・要望への回答を受けて、すべての提案を採択。小番書記長のまとめを受けて、大会宣言、大会スローガンを採択しました。

大会表彰者の報告に続き、技能五輪全国大会で金賞を受賞した関根智祥さん(足立)を表彰。関根さんは受賞できたのは組合の仲間のおかげとの感謝を述べました。選挙管理委員会から選出された新執行部が紹介され、新役員を代表して中村隆幸委員長があいさつしました。また退任役員からは名誉中執の称号が授与された齋藤誠前取締役部長があいさつしました。

技能五輪金賞 関根さん表彰
 大会表彰者の報告に続き、技能五輪全国大会で金賞を受賞した関根智祥さん(足立)を表彰。関根さんは受賞できたのは組合の仲間のおかげとの感謝を述べました。

【品川・塗装・野村和好通信】3月10日、東京地方裁判所第421号法廷で、品川支部組合員の中野健太郎さんに対する中野警察署員による不当な任意同行・取り調べ事件の判決があり、被告の東京都に対して22万円の支払いを命じる判決が出されました。



喜びをかみしめる中野さん(後列中央)と支援の仲間

判決後、中野さんから「金銭の問題ではなく、私たち建設労働者の名誉と意地を争う裁判でした。建設労働者が団結して成し得たことだと思えます。署名・動員等のご協力をいただき、ありがとうございました」との感謝のお礼のあいさつをいただきました。

【品川】品川と、予想を大きく超え、中野さんを後押しする大きな力とされる限度を超え、違法性が認められるとし、「警察官ら協力に感謝申し上げます。」

また、コロナ禍にもかかわらず各支部などで取り組んでいた「公正判決を求める署名」は全体で1万6850筆を求むる署名は全

中野さんへの誹謗中傷等に対する差別的発言、写真撮影及び指紋記録作成等については、残念ながら違法とはいえないと判断され、全面勝利とはなりません。しかし、取り調べを深夜にわた

また、コロナ禍にもかかわらず各支部などで取り組んでいた「公正判決を求める署名」は全体で1万6850筆を求むる署名は全

中野さんへの誹謗中傷等については認められず、「取調べ」という密室で行なわれたことを立証する困難を感じますが、警察官の取り調べ及び捜査の違法性を認めさせ、「国家賠償請求」を勝ち取ったことは大変意義あるものです。

中野さんへの誹謗中傷等については認められず、「取調べ」という密室で行なわれたことを立証する困難を感じますが、警察官の取り調べ及び捜査の違法性を認めさせ、「国家賠償請求」を勝ち取ったことは大変意義あるものです。

【生放送のロシアの国営テレビでプーチンをもった女性AIレクターが「政権のプロパガンダ(政治的宣伝)を信じないで」と訴えた。勇気ある行動だとたたえるのと同時に、その女性の身を案じた人も多かったのではないだろうか。現在のロシアで現政権を批判するのは、文字通り命がけだ。覚悟を決めて、勇気を振り絞らないと反戦デモに参加することなどできないだろう。

【日本でも札幌市で演説中の元首相に野次を飛ばした男女が、北海道警に排除された例があった。女性は増税反対」と叫んだだけで移動させられた上、警察官らに長時間つきまとわれたという。排除は違法だと訴えた結果、3月25日に2人の表現の自由が違法に侵害されたこと、道に88万円の支払いが命じられた。判決は評価できるものだ。ただ、行動や発言を萎縮させ、政権への批判を違法に抑え込むうとする動きは、現在の日本にも引き続き存在する。

【国際世論に囲まれながらも、強気なプーチン大統領の背後には、7割をこえる国内の高い支持率がある。しかし、それは目と耳と口を塞いで築いた砂の城のようなものだ。街頭で国民が叫ぶ切実な声の影響力は、決して小さくない。だからこそ、後ろめたい権力者は神経質なまでに、それらの排除にかかるだろう。

